

# 令和4年度 自己評価報告書

令和5年5月

学校法人亀井啓進会 府中白百合第二幼稚園

## 1、本園の教育目標

- ・年齢に応じた知的、身体的発達を十分に遂げるよう促進する。
- ・自主性を育て、明るく積極的な性格を培う。
- ・友達との関わり合いの中から、主張すること、譲ること、思いやる気持ちを育てる。
- ・読書力をつけ、本の大好きな子になるよう導く。
- ・人の話を集中して聴いたり、ある活動に没頭出来るような落ち着きと集中力を養う。

## 2、本年度重点的に取り組む目標・計画

- ・ひとり一人に寄り添い、見とりの力を付け、幼児理解を深める。
- ・コロナ禍おける保育活動及び教育内容の充実を図る。
- ・新しい時代の母の会活動のあり方を保護者と共に模索する。
- ・様々な方面から、子育て支援の充実を図る。

## 3、評価項目の達成及び取り組み状況

<評価> A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった

	評価項目	評価	取り組み状況
1	ひとり一人に寄り添い、見とりの力を付け、幼児理解を深める	A	◎発達の異なる様々な子どもへの対応や理解を深める為、市から派遣された専門講師に子ども達の様子を見てもらいアドバイスや助言を定期的に受け保育の中で実践した。場合によっては家庭にフィードバックし、相互で幼児理解につながる様、話し合いを持った。 ◎園全体でひとり一人の子どもの成長・発達を見守り・育てる環境作りに留意しカリキュラム会議の際、意見を出し合う等、見とる力を付け、より深い幼児理解につながっている。
2	コロナ禍における保育活動及び教育内容の充実を図る	A	◎コロナ禍だからこそ見えてくる大切なことをしっかり見極める話し合いや取り組み方の工夫が出来、保育活動や教育内容の充実につながった。 ◎運動会の会場をコロナ禍前の競馬場のグラウンドに戻し、学年別の入れ替え制で行った。観客席もすべて立ち見とし、人数制限をつけての開催であったが、広いグラウンドで伸び伸びと演技する子ども達や、それを見守る保護者の笑顔が印象的であった。 ◎おゆうぎ会・音楽会はクラス毎の入れ替え制で行った。入場人数の制限もつけたので観客数が少ないのが残念ではあったが、集合時間・出演時間等クラス毎に決める事が出来、待ち時間等もないので、子ども達は自分達の発表に集中出来ている様子が見られた。

3	新しい時代の母の会活動のあり方を保護者と共に模索する	B	<p>◎コロナ禍で2年間休止していた“母の会”を幼児教育は幼稚園・保護者が子どもと共に3輪の輪となり行うものという考えのもと再開した。</p> <p>◎仕事を持つ母親が増え、働きながらも役員として参加できる母の会を作っというところと新会長・新副会長・3役、役員を中心に幼稚園とも話し合いを重ね、模索しながら活動を行った。</p> <p>◎グーグルフォームの開設、クラスライン・メール等を使い、母の会総会をネット上で開催したり、手紙をPDFにしてメールで配信するなど、ペーパーレス化を図り、役員会の回数、仕事量を軽減した。</p> <p>◎幼稚園は役員にお願いする行事の数を減らし、必要であればボランティア募集する方法を多く取り入れた。</p>
4	様々な方面から、子育て支援の充実を図る。	A	<p>◎入園前の2歳児の一年間、それぞれに有意義な時間となる様、月2回の未就園児親子教室「ぺんぎん」、月1回土曜日開催の未就園児親子体操教室「らっこ」を開室し、子育て相談や入園準備の質問に対応し、安心して園生活スタート出来る様サポートした。</p> <p>◎「らっこ」開催日には、入園前の幅広いお子様対象に園庭開放を行い、遊びに来て頂く事によって、幼稚園が地域に開かれ、親しみの持てる場所になる様、心掛けた。</p> <p>◎共働き家庭であっても、幼稚園の教育を受けさせたいという家庭の支援の為、令和5年度からの預かり保育日数・時間の見直しを行う計画を立てている。</p>

#### 4、総合的な評価結果

評価	理由
A	<p>令和4年度はコロナ禍ではあったが、園児、保護者、職員の健康と安全を守る感染対策を取りながら、皆で工夫して、行事はすべて行うこと、メロディオン等中止していた保育活動も行っていくことを園の方針と決め、スタートした。</p> <p>コロナ前とすべて同じように行うことは出来ないが、子ども達の活動自体はより豊かに、子ども達のより良い成長に寄与できる様、保育案を話し合いで練りながら、滞りなく行うことが出来た。</p> <p>幼稚園での感染状況を見ながら、少しずつ、日々の日常に戻した生活が送れる様、子ども達にも手洗いなどの励行など、繰り返し指導した。地震や火災の避難訓練に臨む姿勢と同様に感染症の事を理解し、自らの身を守るため、手洗いや咳エチケットの励行など子ども達自身で進んでやる姿が見られるようになった。</p> <p>コロナ禍だからこそ見えてくる、真に大切なことを、常に焦点は子どもに置きながら職員みんなで共有し、ひとり一人に丁寧な寄り添い、発達や成長を喜び合う保育の原点に返れた一年でもあった。</p>

## 5、今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	保育活動・教育内容の充実	<p>令和5年度より、水曜日の午前保育（9:00～11:30）を月2回通常保育（9:00～14:00）に変更したり、長期休み期間を検討し、保育日数、時間の見直しをし、保育日数や時間を増やすことで日々の教育内容を充実させる。</p> <p>教育内容の質の高さを保つため、日々の研鑽と職員間の学び合いを大切にする。</p>
2	様々な子どもに対する幼児理解を深める	<p>支援の必要な子どもを含め、「共に育ち合う」環境作りに努め、ひとり一人を大切に想い、寄り添いながら保育する。</p> <p>園全体で子ども達の情報を共有し、様々な子ども達への幼児理解を深める。</p>
3	満3歳児クラスを含む2歳児保育の充実	<p>令和5年度より、満3歳児クラスを開設する。</p> <p>未就園児親子教室「ぺんぎん」、未就園児親子体操教室「らっこ」も保育内容を高め、各家庭の状況に合った3歳児入園に向けた一年が過ごせるように支援する。</p>
4	預かり保育の日数・時間を拡張する	<p>令和5年度より長期休み中、土日祝日、年末年始を除く毎日預かり保育を実施し、午前保育日も18時まで預かり保育を延長出来る等、預かり保育の日数、時間を増やし、共働き世帯を含む様々な家庭のニーズに応える。</p>
5	英語教育の導入	<p>これからの時代に必要となってくる英語に幼児期から親しみ興味を持つこと、更に外国人講師と触れ合い、異文化に興味や関心を持つ機会になる様、月1回の英語レッスンを保育カリキュラムに追加する。</p>

## 6. 学校関係者評価

### (1) 幼児理解を深める

- ・様々な性格や特徴を持つ子ども達に、ひとり一人と丁寧に向き合うことが幼児理解を深めることにつながっていると感じた。
- ・専門家講師からの学びのアドバイス・助言を保育に活かしたり、家庭にフィードバックすることで家庭での子育ての参考にもなり、幼稚園と家庭と双方からの幼児理解につながり、子供の発達・成長につながっていると思う。しかしながら、入園前にも保護者へ共有できればもっとよかったと思う。

### (2) コロナ禍における教育内容の充実を図る

- ・令和4年度すべての行事を行う方針のもと、感染対策に留意しながらも、今できるベストの方法で一部を除き行事を行うことができ、子ども達にも保護者にも本来の笑顔が戻ってきたのは嬉しい事である。
- ・行事の形や発表方法を、感染状況を見ながら本来の形に戻すと共に、コロナ禍で行った方法の良かった点をプラスして新しい形を作り出すこともできた。色々な意味で、もう一度保育の見直しや見返りをするよい機会となり、それが教育内容の充実にもつながっていると考える。

### (3) 新しい時代の母の会活動のあり方を保護者と共に模索する

- ・母の会再開にあたり、仕事を持つ保護者であっても母の会役員として参加できる母の会を立ち上げようと新会長・新副会長・3役、役員と幼稚園とで模索しながら活動し、子ども達の為に協力する態勢ができた。
- ・母の会からの提案を受け入れて頂き、GoogleForm・メール・LINE・PDFなどの手紙の配信など、役員会の回数・仕事量の軽減を実行することができたのは新しい時代の母の会を作る上でとてもよかった。
- ・母の会と各家庭への連絡手段がLINEで円滑に進んだため、幼稚園との連絡手段も電話だけでなく、メールやネット上での連絡手段を増やし、どの生活リズムの家庭でも役員ができる形態にすれば、より充実した母の会活動ができると思う。

### (4) 子育て支援の充実を図る

- ・預かり保育の予約や人数制限を拡大して頂いたおかげで、家庭での時間や仕事時間の充実ができ、とても助かった。
- ・令和5年度より、満3歳児クラス設置の計画をしていると聞き、在園時の弟妹・幼稚園教育を早期に受けさせたい家庭、また保育園継続を検討している家庭の方は、前向きに入園を希望されている方もいた。

### (5) その他

- ・令和5年度幼稚園カリキュラムに英語レッスンを導入することになり、未就園児対象の英語遊びを開催する予定である。地域の方や幼稚園に興味のある方に紹介し。多数の親子に参加して頂き、幼稚園を知る機会になれば良いと思う。
- ・今後の課題として、お手紙や行事案内報告についてホームページの活用を検討していただきたい。